



自助・共助・公助
連携で農作業事故
の撲滅を目指す

日本農業労災学会

Newsletter (JFAPR)
No.11(2018年9月1日)

学会翻訳
ILO 農業における人間工学
チェックポイントの概要

日本農業労災学会事務局
キリン社会保険労務士事務所
<http://jfapr.jp>

<Newsletter No.11 をお届けします>

最近、若い担い手農家の方々と一緒に先進的な農業経営の視察に行く機会が多くあります。こうした中で、農業経営体の中で GAP (JGAP、グローバル GAP) を取得した農家を 3 件訪問しました。GAP 取得の理由は、後継者にきちんとした経営を残したい、様々なお客様と取引がしたい、6 次産業化を軌道に乗せたい等、様々ですが、労働安全衛生のために取得したと答えた農家はいませんでした。

しかし、GAP の目的の中には労働安全衛生確保が明確にうたわれており、学会としても GAP による労働安全の体制づくりを重要視して活動を展開しようと考えています。その中で昨年に ILO 日本事務所から学会に委託されました報告書「Ergonomic Checkpoints in Agriculture」(農業の人間工学的なチェックポイント) の翻訳を田島副会長が中心となって進めてきましたが、このたび無事完訳となりました。

今後の翻訳の公開の仕方につきましては、日本農業労災学会に一任されていますので、今後、田島先生と相談しながら皆様に公開していきたいと考えています。

完訳本が皆様の手元に届くのはもう少し先になると思いますので、その概要のみをニュースレター 11 号で皆様に提供させていただきます。

農業における人間工学チェックポイントの概要

この度、日本農業労災学会は、ILO 駐日事務所の依頼を受けて農業における労働者の安全衛生に関する人間工学チェックポイントの翻訳を行いました。近日中に公開される予定ですが、その概要についてお知らせします。なお、田島副会長は、本年度の学会のシンポジウムで翻訳の概要について報告していますので、学会ホームページにアップしました田島副会長の報告 PDF ファイルを参照してください。

ILO 農業における人間工学チェックポイント 第2版

国際労働事務局 (ILO) 編集

シェングリーニウー

小木和孝

編

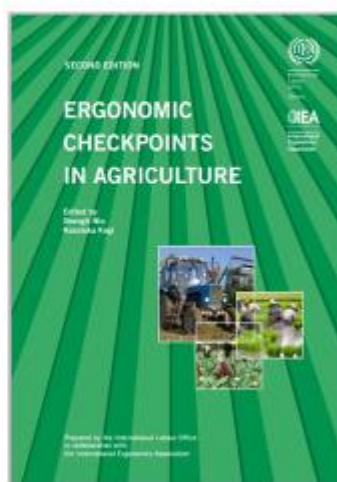
発行日: 2014年

A4判 / 334頁

ISBN 978-92-2-128183-2 (印刷物)

ISBN 978-92-2-128184-9 (PDF)

(英語版)



農業における人間工学的チェックポイント 第2版 (概要紹介)

序文

農業は多くの地域において主要な経済活動の一つであり、先進国、新興国双方で農業従事者は労働安全衛生に関して大きな課題に直面している。農作業現場での事故は、移民や季節労働者、高齢者、女性、子供など、弱者に頻繁に発生する。農村部では、農業労働者が直面する健康被害やリスクに適切に対応するために必要な教育や情報が不足することがよくある。また、農業労働者は、労働安全衛生法、雇用傷害給付または保険制度の対象外となることが多い。特に地方の農村地域では、労働査察が不十分であったり、雇用者と労働者との間で危険とその予防についての理解と訓練が十分でない、農業労働者が十分に組織化されていないなど、制度が十分に機能しないことが多い。

農業労働者の安全衛生に対する総合的なアプローチは、農村開発政策の展開において重要な要素である。農業の労働に関わる災害や病気の減少、生活環境の改善、生産性の向上を支援する実践的な行動が求められている。2012年にIEAと協力してILOが発表した『農業に

おける人間工学的チェックポイント』の初版では、実践的、効果的、低コストな改善の例を示すイラストが付いた 100 の具体的な行動ポイントを概説した。これらの具体化されたノウハウは、人間工学的な応用に基づいており、生産性の向上と農業労働者の負傷や病気の軽減という点で有用である。

『農業における人間工学的チェックポイント』の第 1 版は世界中で広く受け入れられ、人間工学に基づいた実務家や専門機関によるトレーニングツールとして使用されている。しかし、人間工学の専門家や労働安全衛生の専門家は、さらに人間工学に基づいた最高の技術と最高のツールをベースにした新しいイラストを追加することでこの本を改善できるとコメントした。人間工学の専門家からの提言、および労働安全衛生実践者からのフィードバックは、初版の残部が急速に減少したことにより、100 のチェックポイントに関連するイラストを大幅に改善した第 2 版の制作を決定した。

『農業における人間工学的チェックポイント』の第 2 版が、マネージャー、監督、労働者、トレーナーや教育者に活用され、人間工学に基づく職場改善を実践する手助けになることを期待する。

ジュゼッペ・カザーレ（国際労働事務局 労働管理局、労働検査および労働安全衛生部
臨時代表者）

はしがき

このマニュアルは、国際人間工学協会（IEA）と国際労働機関（ILO）によって招集された国際的な専門家のグループによって共同で作成され、人間工学的観点から農業労働と農村生活改善のための実用的な解決策を提示している。ここに列挙されたチェックポイントは、農村地域、農業におけるより安全・健康で、効率の良い作業のために、既存の作業および生活環境を改善する手段として活用されることを期待して整理されている。

『農業における人間工学的チェックポイント』は、個々の職場に適合したチェックポイントを設計するための出発点として使用することができる。このチェックポイントの内容と使用方法については、「マニュアルの使用上の提案」で説明している。このマニュアルは、人間工学の観点から既存の作業条件を評価し、様々な状況で効果的な改善を実施するために使用することを推奨している。

『農業における人間工学的チェックポイント』は、ILO 研修プログラム WIND（Local Improvement Work Improvement in Neighborhood Development）によって提案された方法論を考慮した参加型行動のための農業者訓練プログラムとして整理された。この方法論は、ベトナムカントーの農場で、ベトナムのカントー州保健局労働安全衛生センターと日本の川崎市の労働科学研究所によって初めて使用された。WIND 法の基本原則は、中小企業における作業改善（WISE）として知られる ILO 訓練アプローチを反映している。ILO WISE のアプローチは、多くの発展途上国で多くの職場改善をもたらした。ILO はいくつかの途上国で WIND プログラムを開始しており、これらのプログラムはこれらの国々の小規模および

小規模農場や農村で実践され有効な結果を生み出した。

共同編集者

シェングリー ニウー（国際労働事務局 労働管理・労働検査および労働安全衛生支部
コーディネーター・シニア専門家、
小木和孝（農業における人間工学的チェックポイントのための IEA 作業部会議長
国際労働事務局 国際人間工学協会）

目次

序文

はしがき

マニュアルの使用に関する提案

農業用人間工学的チェックリスト

資材の保管と取り扱い

ワークステーションとツール

機械の安全性

農耕用車両

物理環境

有害化学物質の管理

環境を守ること

福祉施設

家族と地域の協力

作業組織および作業スケジュール

付録 1 参加型行動指向型訓練の農業における人間工学的チェックポイントの使用

付録 2 農業に関する行動チェックリスト

付録 3 人間工学的なチェックポイントを使用した農業におけるトレーニングワーク
ショップのサンプルプログラム

付録 4 グループ作業成果の例

会員の皆様へのお願い

会員の皆様の本会「Newsletter」への積極的な投稿をお待ちしております。原稿は、郵送、ファックス、メール等で学会事務局にお送りいただければ幸いです。特に JA における農作業事故防止に関するユニークな取り組みや実践事例、社会保険労務士事務所による研修や事故防止活動事例などの応募を期待しております。

E-mail : kuroda@kirin-office.com FAX : 042-316-6430